

**日本心理学会若手の会**

JPA Early Career Psychologist Network

Vol.7 No.1 2023  
**NEWS  
LETTER** **CONTENTS**

- ・ 異分野間協働懇話会のお知らせ
- ・ 任期満了による幹事交代のお知らせ
- ・ 新幹事紹介
- ・ 日本心理学会若手の会 企画報告
- ・ 大会参加支援 受賞者の方々
- ・ 編集後記

**異分野間協働懇話会のお知らせ****<第7回異分野間協働懇話会>**

日時：2023年6月

(詳細は決定次第若手の会HP等でお知らせします)

開催形態：Gatherを用いたオンライン開催

(参加費無料)

参加・発表登録期間：2023年5月ごろ

例年3月に行われていた「異分野間協働懇話会」ですが、第7回にあたる本会は6月に開催される運びとなりました。本会は、分野の枠にとらわれず、若手研究者・研究者を目指す学生などがアイデアや意見の交換を行うことで、新たな研究や実践のあり方について議論を深めることを目的としています。プログラムには、ポスター形式による研究発表(研究計画、実践活動報告、他学会で発表済みのものなどを含め、種々の発表を歓迎します!)、若手の会幹事によるフリートーク(テーマは決定次第お知らせします)を計画しています。皆さまのキャリア育成のヒント探しに、是非この機会を活用して頂ければと思います。今後のお知

らせにご注目ください!

(瀧川諒子・富田健太・前澤知輝)

**任期満了による幹事交代のお知らせ**

今年度の7月をもちまして、幹事の中川裕美さん(東北福祉大学、共同代表幹事)、宮坂真紀子さん(女子美術大学)、佐藤徹男さん(札幌国際大学)、瀧澤颯大さん(社会福祉法人 楡の会・全国障害者問題研究会北海道支部)が任期満了のため退任致しました。本当にお疲れ様でした。4名から退任の言葉をいただきました。

**中川裕美さん(東北福祉大学)より**

在任中は、中の人として多くの経験を積ませていただきました。会の運営にご協力していただいた皆様に感謝申し上げます。現幹事は「若手の会を充実させたい」という気概に溢れた方ばかりです。若手の会にやってほしい企画やこんなことがあると嬉しいといった意見を気軽にお願いします。若手の会がさらに盛り上がることを応援しています!

**宮坂真紀子さん（女子美術大学）より**

4年間の在任中、皆様には大変お世話になりました。この場をお借りして感謝申し上げます。思い返せば、学生の頃に第一回異分野間協働懇話会に勇気を出して参加したことがきっかけでした。あれから様々な研究者に出会い、今の自分に繋がっていると思うと感慨深いものがあります。これから先も若手の会を応援していきます！

**佐藤徹男さん（札幌国際大学）より**

米国留学からの帰国直後で心理学に関してのツテや仲間がいない中、多くの方々に助けて頂きました。任期中は自分のやりたいシンポジウムを企画したり、若手の会の皆様や他の幹事との親睦を深めることができ、楽しかったり心強かったりと様々な経験をさせて頂きました。どうもありがとうございました。

**瀧澤颯大さん（社会福祉法人 楡の会・全障研北海道支部）より**

主に学部生プレゼンバトルや大会参加費の支援に関する業務を担当しておりました。私が幹事に着任したのは、修士課程を修了し、現場に出たタイミングでした。世の中の右も左もわからない社会人1年目でしたが、若手の会のみなさまのご支援もあって、4年の任期を無事に走り終えることができました。この場を借りて感謝申し上げます。これからも若手の会で経験したことを糧に様々な活動をがんばります。今後ともよろしく願いいたします。

共同代表幹事として引き続き上野将玄さん（公益財団法人たばこ総合研究センター）が継続され、新共同代表幹事として井上和哉さん（早稲田大学）が着任されました。長年尽力されてきた中川さん、宮坂さん、佐藤徹男さん、瀧澤さんが退任されるのは寂しいですが、幹事会は新代表幹事のもと心を新たに頑張って参ります。今後ともどうぞよろしく願い致します。

**新幹事の自己紹介**

**工藤大介さん**  
（くどう だいすけ）  
（東海学院大学、講師）

皆さまはじめまして！新たに、日本心理学会若手の会幹事になりました、工藤大介です。現在は、新型コロナウイルス感染症ワクチンの接種の、「促進・阻害プロセスについて」と、「人はなぜフードファディズムに陥るのかについて」をテーマに、研究を行っています。

後者に関しては、耳にしたことがない方も多いかと思います。フードファディズムとは、「食品や栄養が病気と健康に与える影響を、誇大に信奉すること」を指します。特定の食品が健康に良いと紹介されると、売れて店頭から商品が消えるアレです。

新型コロナワクチンや、食品関連等節操なくテーマを選んでいるようにも見えますが、背景にはリスク認知と意思決定に関する知見が存在しています。人々がワクチンや食品に対するリスクを過剰評価するのはなぜだろうか、さらに、直感や感情に基づき、安易な選択・消費行動をしてしまうのはなぜだろうかという問いを常々考えています。

このような経験から、若手の会では、社会問題に対して心理学の知見をどのように応用できるかといった視座を元に、異分野間・各領域間での協働を促進すると共に、心理学を志す、若い世代の方々に応援することに尽力していきたいと思えます。どうぞ宜しくお願い致します。

## 瀧川諒子さん

(たきかわ りょうこ)

(早稲田大学大学院文学研究科、博士後期課程)



新たに日本心理学会若手の会の幹事に着任いたしました早稲田大学の瀧川諒子です。現在は4歳と2歳の子の母親であると同時に、博士課程に在籍する学生として、進化や適応の考え方を理論的背景において主に生理心理学・発達心理学領域で研究を行っています。たとえば最近取り組んだ研究には、ストレスに対する生理学的反応の現れやすさによって、出生体重が女性の初経年齢に与える影響が異なることの検証や、染色体末端(テロメア)の長さの違いによって、テストステロンが男性の配偶行動に及ぼす影響が異なることの検証があります。元々は実験による研究を行っていましたが、コロナ禍を経て、調査をはじめ、オンラインツールや郵送を用いた介入など、様々な研究方法に可能性を感じています。

若手の会では、ライフイベントが想定されると同時に研究者としての活躍が最も期待される時期にある若手研究者の力になりたいと考えています。…と言うと大層に聞こえますが、実のところ私自身も、皆さんと「小さい子を持つ研究者の皆さん、国際学会にはどうやって出席していますか?」「出産に伴う心身の変化が研究に影響している…これ、元に戻るのでしょうか?(涙)」のような、赤裸々な情報交換がしたいという思いがあります。微力ながら、若手研究者の地位向上や社会での新しい役割の創出に貢献できるよう、努めていく所存です。どうぞよろしくお願いいたします。



## 町田規憲さん

(まちだ みのり)

(早稲田大学大学院人間科学研究科、博士後期課程)

こんにちは、あるいはこんばんは。新たに幹事に就任しました、町田規憲と申します。私はこれまで、臨床心理学領域を主専門として、臨床と研究に従事してきました。主要な研究テーマとしては、心配をはじめとする未来思考による功罪と、その機能を規定する要因の検討になります。特に、心配・不安に振り回されやすい人(高心配性者)はなぜ深刻な生活支障を抱えてしまうのか?なぜこの生活支障は心配・不安が解消されても残存してしまうのか?どうすれば本当にしたいこと・すべきことに焦点化した生活を送れるようになるのか?という困り感に答えるための研究をしています。詳細は既刊および投稿中の論文に譲りますが、従来の実験デザインに、ウェアラブルデバイスやスマートフォンを加えた測定、機械学習を利用した解析など、これまでの研究の限界や現象に合わせた工夫を試みながら、臨床・研究を進めています。

臨床現場では、支援が必要な状態像にありながら支援につながらない人が多く存在し、大きな課題になっています。これについては多くの研究があり、様々な要因が指摘されています。例えば情報を伝えるタイミング、情報の一般化可能性の限界、情報の発信方法などです。これは心理学知識全般の普及・啓発にも共通しているでしょう。こうしたギャップをクリアするために、非専門家—専門家・専門情報、専門家—専門家間のネットワークを構築すること、その中で新たなシステムを構築することが必要と考えております。若手の会では、そういったハブの機能を果たしていけるように、企画や活動に従事したいと思います。幹事

だけでなく、若手の会会員の皆様と取り組んでいけたらと考えています。皆様、これからどうぞよろしくお願いいたします！

## 日本心理学会若手の会 企画報告

### <若手の会企画シンポジウム>

「大学の研究者が企業や地域と共同関係を結ぶために必要なこととは？」

本シンポジウムでは、教育、企業、スポーツ領域の方と共同研究を実施している先生方をお招きし、共同関係の構築や研究フィールド開拓のチャンスを得るために、研究者に求められる要素や日々の姿勢について議論を行いました。

話題提供者には、教育領域の研究者として、山田達人先生（明治学院大学）、企業との共同研究や社会実装を進めておられる研究者として、岡島義先生（東京家政大学）、スポーツやアートパフォーマンス領域の応用科学の研究者として、工藤和俊先生（東京大学）にご登壇いただきました。また、パネルディスカッションでは、それぞれの話題提供者の共同研究者（順に、守谷喜光先生（埼玉県ふじみ野市立大井東中学校）、秋富 穰先生（NEC ソリューションイノベーション）、菅野仁美先生（JLPGA 公認女子プロゴルファー））にも参加いただき、双方向から、大学の研究者が共同研究の機会を得るためや、研究フィールドの開拓に重要なポイントについて議論を行いました。

本シンポジウムを終えて、山田先生の話提供からは、共同研究や研究フィールド開拓の機会は、どこにあるかは分からず、一期一会の出会いを大切にしながら、純粹に協働する方のニーズに応えていく、ひたむき姿勢が必要であると感じました。また、岡島先生の話提供からは、若手研究者時代に、自分はどのような研究に惹かれるのか、自身が行いたい研究の方向性を明確にしておくことの大切さを感じました。ある分野や技術の専門性

を高め、こういった研究をしている人なのかを明瞭にしておくことで、共同研究の機会が増えることや、自分が行いたい研究にもコミットできるということを学びました。工藤先生は、先生自身の研究内容をととても魅力的に話されている姿が印象的でした。先生のお人柄も含め、数多くの優秀な専門家が先生のもとに集まる理由に少し触れることができたように思いました。また、結果にとらわれず、日々の研究に打ち込む、三昧の日々を過ごしていくことの重要性に気づかされました。

さいごに、本シンポジウムの開催にあたって、ご協力いただきました学会の事務局様、若手の会幹事の皆様、シンポジウムの企画を一緒に考えてくださった企画者の富田健太先生（名古屋大学）、司会の横光健吾先生（人間環境大学）、シンポジウムに参加してくださった皆様に心より感謝を申し上げます。（井上和哉）

### <若手のための進路相談会>

今大会で5回目の開催となる「若手のための進路相談会」では、新たな試みとして、例年実施しているのグループ相談会に特別講演を加え、二部構成で行いました。

第一部の特別講演では、進路を検討する際の参考にしていただこうと、企業や公的機関の研究者、一般企業に勤めてから再度大学院に進学し研究職に従事している方、大学で研究している方など様々な背景を持つ先生をお呼びし、進路選択の経緯などについてお話しいただきました。

第二部のグループ相談会では、進路選択や就職活動、研究の内容、学費や生活費に関すること、ワークライフバランス等の相談したい内容に応じてグループ分けを行い、多様なバックグラウンドを持つ相談員が相談に応じました。

なお、今年度から公開企画として実施し、高校生にもご参加いただきました。次回大会以降も、心理学に興味を持ち学びたいと思う若手の後押しとなるような進路相談会と企画してまいりたいと



思います。

(富田健太・讃井知)

### <学部生・高校生プレゼンバトル開催報告>

第86回大会は対面での実施となりましたが、「学部生・高校生プレゼンバトル」はオンデマンド方式で開催されました。今回は昨年よりも盛況であり、申し込みの段階で上限の30演題を上回る応募をいただき、会期には総勢29演題(学部生19演題、高校生10演題)の発表動画が公開されました。昨年度の高校生参加実績(総演題数の三分之一)を今年度も維持することができ、若手の間で徐々に「プレゼンバトル」が定着しつつあるように思います。プレゼンの方法は今年も変わらず4分間とさせていただき、研究計画段階における発表も可能としました。今後は学会事務局のご協力のもと、発表動画が残るようにYouTube等で公開を行うなど、新しい取り組みを考えています。また、改めてSNSによる情報拡散能力の重要性を実感し、こうした機会をなるべく多くの若手が得られるように努力をしてみたいと思います。

(前澤知輝)

### 大会参加支援 受賞者の方々

武蔵野大学大学院 人間社会研究科人間学専攻  
博士後期課程2年

加藤 伸弥さん

この度は、日本心理学会第86回大会の参加費支援事業に採用して頂き、大変ありがとうございました。

私は、常識だけで考えたら悲観されがちな感情の機能を説明するために、進化心理学的アプローチを用いて研究を行っています。本大会では、共同研究者である野田昇太先生(武蔵野大学)が企画された、公募シンポジウム「社交不安症の治療に活かす基礎研究と臨床」にて話題提供をさせて頂

きました。私のパートでは、臨床心理学のメインストリームのひとつである”効果的な治療”という題材から取って距離を置き、社交不安という感情そのものの仕組みと働き、換言すれば、生物としてのヒトの心理システムに社交不安という感情が仕込まれている究極的な理由について議論しました。こうした取り組みは、臨床技術の進歩に直接的な報いを与えられる類のものではないのかもしれない。しかし、臨床的な文脈で取り上げられるネガティブな心理現象に関する進化的機能を研究するという事は、私たちに苦しめやすくさせている設計上の特徴を研究するという事であり、”効果的な治療”を考えるうえでの重要なパーツのひとつになる可能性があるとも思えます。

今後も、なぜ私たちは、不合理に思える感情に突き動かされ、思考を混乱させ、心を煩わせるのか?という基礎的な問いの一端を解明するための研究に尽力してまいりたいと思っています。本大会は、その第一歩として非常に意義のある経験となりました。改めて感謝申し上げます。

筑波大学大学院 博士前期課程2年

澤井 建人さん

この度は日本心理学会第86回大会への旅費支援事業に採用していただきまして誠にありがとうございました。今回は初めての対面での学会発表で緊張しましたが、応援いただいているという意識もあって大変心強く、無事ポスター発表を終えることができました。私は今回、習慣的な運動量と魅力効果(意思決定における文脈効果の1つ)との関係性について、習慣的な運動量が多い人ほど、魅力効果が減少するという仮説のもと行ったオンライン実験について発表させていただきました。

今回の学会発表において、自身の研究に対して多くの方からご意見を伺うこと、同世代の方々と知り合うことの2点を意識しておりました。今回発表したデータは少し解釈が難しいと感じていた

ため、今回たくさんの方とディスカッションさせていただき、自身のデータについてより深く考えることができました。そして先生方だけではなく同世代の大学院生の方々ともポスター発表を通して知り合うことができ、刺激を受けることができました。また次の学会ではより面白い研究を皆様にご報告できるよう精進して参ります。

#### 甲南大学大学院 博士課程3年、非常勤講師

中谷 智美さん

第86回大会の参加費のご支援をいただきましたこと、厚くお礼申し上げます。

私は、本大会で研究成果を発表することで、より多くの研究者に「催眠」について知ってもらうことと、活発な意見交換をすることを目指しました。催眠は、過敏性腸症候群やうつ病など様々な心身の疾患にして有効なセラピーであり、海外では臨床適用やその効果研究が進展しています。それにもかかわらず、わが国では催眠イメージが悪いせいか、実証的な研究も乏しく、臨床適用も不十分です。そこで、催眠の普及のためには催眠イメージを詳細に把握しその改善を図る必要があると考え、催眠イメージの研究を行っています。本大会では、その一連の研究の一部を発表しました。

この度、研究者と支援者に向けて催眠の正しい情報を周知する研究発表の機会をいただき、幸甚に存じます。これを足掛かりとし、今後さらに催眠研究と実践を推進すべく、精進して参ります。この度は誠にありがとうございました。

#### 大阪商業大学 JGSS 研究センター PD 研究員

林 萍萍 さん

この度、日本心理学会第86回大会では、参加費をご支援いただき、誠にありがとうございました。この場をお借りしてお礼申し上げます。

今回は久しぶりに対面で参加できると思っていましたが、諸事情でオンライン参加になってしまい、残念に思っています。一方、全てのポスター発

表に対して、web上で気軽にコメントや質問できることで、ハイブリット開催の魅力を感じています。

私はこれまで、面子(メンツ)に関わる感情や行動の日中比較を行ってきました。最近、多くの調査でみられた「中国人が日本人よりも高い一般的信頼をもっている」という結果に興味をもち、日中文化差を説明できる社会文化的要因を検討していきたいと考えています。

今回の大会では、研究員として関わった子どもの生活実態調査の個票データを用いて、コロナ禍における子どもの抑うつに関連要因についてポスター発表を行いました。これまでの研究から離れています。これから研究領域を少しずつ広げ、福祉や教育現場に応用できる研究を進めていきたいと思っています。

また、今後も引き続き日中文化の相違点を検討していき、日中の相互理解、多文化共生社会の構築に貢献していきたいと思っています。

#### 筑波大学大学院 博士前期課程1年

松本 彩花さん

この度は、若手の会より日本心理学会第86回大会への参加費のご支援を賜りましたこと、心より御礼申し上げます。

本大会は、私にとって初参加となる学会であり、ポスター発表をすることも初めての経験でした。大会では、自尊心と、社交不安症状の中核的な維持要因とされている自己注目、評価懸念の関係性についての卒業研究を発表させていただきました。発表は大変緊張しましたが、世代や領域を問わず多くの方から多角的にフィードバックを賜り、自身の研究の意義や今後の発展可能性について新たな気づきを得ることができました。

また、若手の会の進路相談会では、様々なキャリアを歩まれておられる先生、先輩方から貴重なお話を拝聴し、今後のキャリアについて親身に相談に乗っていただきました。さらに、他校、他領域

の方とも交流を深め、今後も切磋琢磨できるような関係性を築くこともできました。この場をお借りして、改めて御礼申し上げます。

今後は、本大会で得た学びをもとに、社交不安症をはじめとした精神疾患の発症メカニズムや予防、アウトリーチ方略のあり方について多角的に検討し、心理学界の発展に貢献できるよう尽力してまいります。今後とも、よろしくお願い申し上げます。

### 編集後記

今年度の学会は対面とオンラインを組み合わせたハイブリッド開催でした。初めての試みの中で、対面大会で久しぶりに顔を合わせた方、新たな交流が生まれた方、オンラインで参加しやすかった方もいらっしゃったのではないのでしょうか。

今年度、若手の会は、新たに3名の方が幹事に加わりました。これからも日本の心理学の若手を引っ張っていくことができるようなイベントやシンポジウムを企画していきたいと思います。

次は、第7回異分野間協働懇話会にてお目にかかれそうですと幸いです。引き続き、どうぞよろしくお願い致します。

(井上和哉・佐藤稔子・富田健太)

発行：若手の会幹事会

〒113-0033 東京都文京区本郷

5-23-13 田村ビル内

公益社団法人日本心理学会事務局

[ips-ecp@psych.or.jp](mailto:ips-ecp@psych.or.jp)

2023年2月4日発行

編集：若手の会幹事会